

刊夕 日二十月二



定価 一部五銭 二部一〇銭 三部一五銭 四部二〇銭 五部二五銭 六部三〇銭 七部三五銭 八部四〇銭 九部四五銭 十部五〇銭 十一部五五銭 十二部六〇銭 十三部六五銭 十四部七〇銭 十五日七五銭 十六日八〇銭 十七日八五銭 十八日九〇銭 十九日九五銭 二十日一〇〇銭 二十一日一〇五銭 二十二日一〇五銭 二十三日一〇五銭 二十四日一〇五銭 二十五日一〇五銭 二十六日一〇五銭 二十七日一〇五銭 二十八日一〇五銭 二十九日一〇五銭 三十日一〇五銭 三十一日一〇五銭 三十二日一〇五銭 三十三日一〇五銭 三十四日一〇五銭 三十五日一〇五銭 三十六日一〇五銭 三十七日一〇五銭 三十八日一〇五銭 三十九日一〇五銭 四十日一〇五銭 四十一日一〇五銭 四十二日一〇五銭 四十三日一〇五銭 四十四日一〇五銭 四十五日一〇五銭 四十六日一〇五銭 四十七日一〇五銭 四十八日一〇五銭 四十九日一〇五銭 五十日一〇五銭 五十一日一〇五銭 五十二日一〇五銭 五十三日一〇五銭 五十四日一〇五銭 五十五日一〇五銭 五十六日一〇五銭 五十七日一〇五銭 五十八日一〇五銭 五十九日一〇五銭 六十日一〇五銭 六十一日一〇五銭 六十二日一〇五銭 六十三日一〇五銭 六十四日一〇五銭 六十五日一〇五銭 六十六日一〇五銭 六十七日一〇五銭 六十八日一〇五銭 六十九日一〇五銭 七十日一〇五銭 七十一日一〇五銭 七十二日一〇五銭 七十三日一〇五銭 七十四日一〇五銭 七十五日一〇五銭 七十六日一〇五銭 七十七日一〇五銭 七十八日一〇五銭 七十九日一〇五銭 八十日一〇五銭 八十一日一〇五銭 八十二日一〇五銭 八十三日一〇五銭 八十四日一〇五銭 八十五日一〇五銭 八十六日一〇五銭 八十七日一〇五銭 八十八日一〇五銭 八十九日一〇五銭 九十日一〇五銭 九十一日一〇五銭 九十二日一〇五銭 九十三日一〇五銭 九十四日一〇五銭 九十五日一〇五銭 九十六日一〇五銭 九十七日一〇五銭 九十八日一〇五銭 九十九日一〇五銭 一百日一〇五銭

と發開の田炭磐常

片寄平藏

【六】

山口彌一郎

菅運吉との取引に就いて次の文書がある。
立十月十九日
菅運吉殿へ差出候下書
一札之事
秋田國産の諸材木取組一條に付江戸表大阪屋庄之助殿方へ行合罷下貴殿に荷仲仕爲差登候處追々と約束不相當之儀申參殊に〇元仕入金始内金(五字不明)延滞罷成木代金上納方甚だ不都合に罷成候に付御掛念之儀至極御尤致候仍之私儀〇元出足延引仕國元より同道仕候下人要八と申候もの態々江戸表へ爲差登下金之儀掛合候へ共先以て何之様子無之右様子有之候迄此表にて滞留仕引配可仕儀候得共年中餘月も無之月迄に罷成候得ば江戸表材木賣捌方も無覺東候に付此度改而貴殿江頼入木代金上納方諸難用に致迄悉皆御立替を得候に相違無御座候右渡方引配之儀は〇元仕入金別紙差引替表之通與一郎殿同道仕江戸着之上者無相

違爲相渡可申候右之内貳百兩先達て而爲替手形爲差登候儀は江戸着否哉爲相渡可申候其他の分は年中秋田表江差下し可申約定に御座候元來店へ引合承知之上爲差登(一字不明)木品に候得ば引合通り彼是爲申間敷儀勿論之

ノート

時計を買ふとき音が強く正しく時計を横にしても斜にしても音の狂はぬものを選びなくてはならません。
時計を買ふとき音が強く正しく時計を横にしても斜にしても音の狂はぬものを選びなくてはならません。

文藝募集

の金を献じ残りは江戸に於いて苦面致しませうと申上げた。たゞちに江戸に出て取引先の資田材木店と交渉し當時笠間領内であつた田村郡小野新町附近の藤堂山の立木を資田屋に賣却する約束をせよとめ残金を調達し千兩箱を馬に負はせ行列を造つて笠間へ公の定紋ある高張をかゝけて堂々と郷里に歸つたことがあつた。その年次は不明であるが之より〇公の親任は誠に厚く江戸往復には乗馬で槍持ちを従はせて道中したと言ふ



喜多流謠曲と仕舞の

お稽古をお勧め致します

喜多流 謠曲 仕舞 白土會

◇詳細は本會へ御問合せ下さい。

氣管食道科

平南町 (電話一七〇番)

大和田醫院

◎二日市の景品は左の通り御實行せられん事を希望します
一、現金にて御買上の方に景品を呈します
一、現金にて商品券御買上の方にも同様景品を呈します
但し商品券にて品物御買上の方は景品を差上げません

平商工會

平町各商店御中
平町御客様御中

最近産地かき貝豊漁に付本店直接産地より買込かき料理を大値下げして舊春の御務を致しますと共に
来る十三日迄マグロデーとし勉強いたしますから何卒御試食下さい、もし御口に合ない時は御遠慮なく御返し下さい、直ぐ取りに參ります。

(かき料理)		(マグロ料理)	
なべ(一人前)	二五	さしみ	二五
酢の物	一五	すし	二〇
フライ	二〇	てつか巻	二〇
百々	二五	ねぎまなべ	二〇

魚清食堂部

電話六三三番

新築感謝 萬年筆大賣し

記念金文字御名人無料
お氣に召す迄金ペン交換
五ヶ年絶對責任付
定價二圓以上
品種豊富
平紺屋町角公園前
角忠……佐々木商店
電話二三三番

吉例 舊正月三日 景品付

店内寶探し大賣出し
どうぞお早く御来店下さい御買上一圓毎に寶探し券一枚宛進呈致します。
何卒店內を御自由に御探し當て下さい。
◎景品大々的奮發
金指輪 美術置時計 机。腕時計
其他……
平驛前通り
ダイヤ堂 鈴木時計店

月曜是非

郷土の晴れ着

平町の舗装道路實現現望は、多年に亘る懸案であり、一時は各區長が腰辦當で内務省に請願に押掛けた事もある。

此の募る思ひが漸くかなつて今度は實現の緒に着いた。

總工費四萬圓と見てその三分の一が地元負擔であり是れを折半して平町と受益者が負擔するといふのが案の大綱である。

最近漸く側溝を完成してホットした姿で居る處へ、更らに矢繼早の此の工事は受益者側としても仲々容易な事ではない、この不景氣に……との嘆聲も多少は聞える模様である。

而し不景氣であるからとて萎靡退却して終へば夫れギリである。

不景氣なればこそ借金を質に入れても更生の策を構ぜねばならない。

都市計畫の上からも、自家經營の上からも、道路の改良は焼眉の急である、泥濘に埋る醜い平町が市制實現間近に接する濱通りの邑都を以つて誇る資格何處にある？、凸凹道を前にして發展せぬ商店が、不振の罪を不景氣にのみ塗り付け、愚を止めよ！、斯ふも叫びたくなるのである。

その達成を迫る時のみ躍起になつて、愈々實現の肝賢な時に腰が砕けて終つ

萬歲聲裡に

建國大行進

梅香る昨日

平町の建國祭

皇紀二千五百九十四年紀元節の佳日を壽ぐ平町の建國祭は床しき白梅の馥郁とに薫る昨十一日午前十時半から

平第一 小學校庭に於いて嚴かな裡にも亦盛大に舉行されたけふの佳き日を祝福せんと春淺く朝寒むの空の下、動員された警中、警女、平商、藤田、平陽、佑賢、青年等七中等學校夫れに三小學校の學童たちま

た在郷軍人會、消防組、青年團、青年訓練所、愛國婦人會、女子青年の各團體並びに一般有志を合し

三千名が定刻刻亮と響き渡る『氣を付け』のラッパに整列、先づ篠山第一校長の手に依り大國旗は橋頭高く翻り『君が代』の國歌が天にも響けと勇ましく合唱される、次いで青沼町長が莊重な面持ちで宣誓文を朗讀、皇居並に伊勢大廟を遙拜し萬歲を

三唱の後縣社子歟倉

は、折角の計畫が書餅に終るであらう、現在金が幾らかゝるかの問題よりも、舗装完成の後の便益を算盤玉に乗せれば、此際徒らに躊躇して居る場合ではない。

多年の趨望が漸く叶ふ此の絶好の機会に平町は擧げて此の實現に協力し愛する郷土に舗装の晴れ着を一枚喜んで奮發すべきではないか。

御下賜金

昨日傳達さる

平自營會では昨日紀元節に當り畏きあたりより司法保護事業御獎勵の恩召をもつて御内帑金御下賜の御沙汰あり之れが傳達式は昨日午後一時より福島刑務支所樓上に於て行れたので同會理事平刑務支所長本庄吉之助氏が出席受けたが同會は明治四十三年創立され今回迄の刑餘者保護費二千餘名に上つてゐると

就職難關を

斷然突破す

平商卒業生朗らか

廿六名の就職希望者が勤先全部決定

既報平商業學校に於ける本年度就職希望者は卒業生四十名中自家營業十名、上級學校志望四名を除き合計二十六名で之れが就職斡旋に就いては過般來矢野校長を始め各教諭が寢食を忘れて東奔西走中の處此程全部就職口が決定したので學校當局も一安心の態であるが各就職先は地元各商店炭礦會社其他左の如くである

(東京)川崎貯蓄銀行 日本晝夜銀行 治火災

尼子橋を應急施設

本紙記事が動機

通行上注意して欲しいと

小林監督所長語る

本紙九日付夕刊第三面『寒夜の街で拾つた話』の標題で盲人が尼子橋上から新川に轉落したことを報導した記事を読み昨日小島氏の某氏から『尼子橋に欄干がないため此の様な事件が起るのである、通行に際し非常に危険多く憂慮に耐へない』と本社宛に投書が來たので直に平土木監督所にこの旨報告し同所の意圖を問合せたとこ早速同橋の通行安全を期するため應急工事を施すことになつた尙小林所長は語る

公民學校

六日間休む

平商業學校内實業公民學校では生徒が大部分各商店の子弟だけに舊歲末及び正月には色々多忙を極め欠席者が多數に上るので本日より六日間休業する事になつた

新年祭に講演 平町各小學校では来る十七日の神宮新年祭には國旗を掲揚し各校長の講演がある

神谷農組總會

神谷村農事實行組合では来る十五日午前十時より役場内に於いて總會を開き本年度豫算及び事業計畫等に就いて協議する

江名漁業講習

江名漁業組合では舊正月で休業する漁夫達に遠洋漁業の智識を普及する爲め一日乃至二日位の短期講習會を開く計畫であると

平町人事

△古鍛冶町三五杉本勝治氏 長男昌章
△搔樋小路二五當時水戸市 奈良町七四菊地賀造氏 二男正夫

羽子板と

破魔弓を

陳列致しました

スガノヤ提灯店

平町四丁目 電話九五番

古例景品付大賞品抽選

平素の御引立に報ゆるため優良格安品豊富に取揃へ景品も大奮發して年一回の御禮大提供!

舊正二日三日の二日間

あかや洋行

ギヤング出現!

自動車を強奪逃走

水も洩さぬ平署の警戒に

犯人遂に逮捕

平署近來の大手柄

昨十一日午後十一時頃平署前交番から平署へ「同夜一時半頃」

渡邊村

地内で東京から来た貸切自動車が乗客に奪はれた」との急報に接したので同署では俄然色めき立ち多数の署員を湯本、内郷方面に急派する一方國道筋の

常磐線

鐵道踏切の遮断器を全部閉して自動車の通行を一々嚴重に取調中同夜十二時頃内郷村駐在所の本田、林田兩巡査が緩驛前淺野記念館裏の暗がりを通り合した青年を取調べると家に歸る途中自動車にパンクして遅くなったとの事に

有無を

云はさず本署に引致し間もなく平署に出頭した被害者東京市小石川區指ヶ谷町七東屋自動車店方運轉手島津貢(三)に首實験をさせた結果遂に眞犯人と判明した同人は埼玉縣北埼玉郡豐野村生れ當時東京市足立區千住東町一八乙種運轉手大谷勝治郎(三)と稱し餘罪取調中だがスピード

犯人も平署の水も洩らさぬ警戒振りには一敗地に塗れた姿である

女房連れ出と

圓タケ資金

自動車窃盜の動機

ツイ口を滑して……

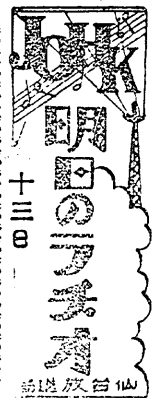
其後平署で犯人を嚴重取調べた結果同人は昨年十一月迄同棲して居た

内縁の妻

石城郡内郷字高坂居住遠藤留吉の長女チヨ(三)を實家から連れ出す傍ら圓タケ稼業を初める資金を得る手段として此の犯罪を冒すに至つたものにて十一日午後四時頃東京市下谷區稻荷町地内を流して居た前記島津運轉手に自分分は吉原の某遊廓の者だが娼妓が

逃走した

のを抱主が捕まへたので迎へに行くと稱して緩驛迄十七圓の契約で島津のフォード三十一一年型一〇九四五號自動車に乗り東京を出發濱街道を北行し同夜十時半頃本郡渡邊村



天 氣 報
今晚も明日も北西の風晴曇半す

今晚の部

後六、〇〇(子供の時間) 唱歌劇「歌聲」金の城音 樂童協會
後六、二五 英語講座(二) 後七、三〇 講演「私の見た蒙古」東北帝大講師 多田等觀

篠山校長

團長就任

第三万部の

既報石城郡第三万部青年團會は本日午前十時より平第一小學校に於て開團長會我直治氏辭任に依り後任者の選舉を行ひ終つた結果第一小學校校長篠山廉氏が當選就任した決算及び豫算の定

高橋町議が

短銃で賊と争ふ

急報后五分間で現場臨檢

敏活な平署の

活動振に感激

昨十一日午前三時頃平町白銀町町會議員高橋龜松氏宅の塀を乗り越へた怪漢が便所の窓をこぎ向けて侵入せんとした物音に目覺めた高橋氏がピストルを擬して誰何したところ

不敵にも 賊は突然躍りかゝらんとしたので同氏は威嚇のため所持のピストルを發射するや驚愕した賊は後をも見ず逃走した、直ちに家人が電話を以て平署に急報、機を逸せず同署から草野刑事外數名の署員急行し現場調査の上捜査網を張り双葉郡久ノ濱町大字新町八津作字平立三六ヒサ次男中村正男(一)假名一を犯人として逮捕したが同人は

明日の部

前七、〇〇 基礎獨語講座(十五) 橋本忠夫
前九、一〇 料理献立「鹽鮭の吹雪燒」發表小林完前一〇、三〇 家庭講座「雪見茶の切懷石料理法」(終) 栗山善四郎
後〇、〇五 管絃樂交響曲(第九十三) 東京ラジオオーケストラ 指揮 菅原明朗
後〇、〇〇 家庭大學講座「新日本畫の描き方」四望月春江
後五、〇〇 東北民俗行事「ナマハダの話」曲田慶吉

後五、三五 受験講座 和文英譯 岡田實磨
後六、〇〇 子供の時間「こゝろいさつとうた」京城より中繼
後六、二五 言葉の講座(第九講) 鼻を使ふ發音 其一 保格
後七、二〇 講演 杉浦夫 臺先生 十周年に際して 古島一雄
後八、〇〇 長唄 連夜二題の内第三夜京鹿子娘道成寺芳村伊十郎 外大勢
後八、四〇 連續浪花節「河内山宗俊」 第二席 木村友衛

恐喝犯の

綿引控訴

既報去る九日恐喝罪に依り平支部中島判事より懲役一年を言渡された内郷村大字綴綿引司馬之助(一)は本日不服とあり控訴を申立た

市原醫院

平町 田町 電話一四四番

去る一月二十八日東京市日本橋濱町三丁目吳服商山田昭久方より現金五圓五十錢を

不眠不休の活動の結果によつて我々人民が平和裡に生活することが出来るのだと考へると私達が安逸に暮らしてゐる事が濟まないと感じます、人民保護の重責に當る警察官に萬腔の敬意と感謝を捧げます
と感激して語つた因に賊に向つて發砲したのは盜犯防止令發布以來本縣に於いて是れを以つて嚆矢とする正當防衛の行爲であると

父博之遺骨歸郷ノ際ハ御多忙中

中特三御迎被下厚志御忝ナク奉存
候乍略儀以紙上御禮申上候
二月十一日

白井一郎



【禁無斷轉載上演映畫】

寶馬 山本英春 演

第五百十六回 徳川家に崇る村正

ヤア珍らしや溝口

一人の賊を背打ちにする
とソレ手強い野郎だ油断す
るなど言ひながら競ひ掛る
を右と左にビシリビシリ背
打にする、彼の旅の武士は
仲々の腕前、この時山賊の
張本、驚九郎といふ奴手に
鐵砲を持つてソノリ／＼近
附いて来たが

驚九郎コレヤイ武士、見掛け
に依らぬえ強え野郎だ、然
しこの驚九郎の自慢の一ツ
玉こればかりは受け切れ
めえ、サア念佛でも題目で
も唱へるなら今の内だ』
と旅武士の胸元を狙らつ
てピタリと付けた

武『ヤア飛道具とは卑怯な
奴、然し身延の靈場に程近
き處、直に神佛の在ります
なら汝如き惡漢の放つ彈丸
正義の武士に的中すべき筈
なし、サア撃つなら撃て』
と一刀を青眼にとつて身

構へた、傍に見てゐた二子
山は驚いた、いくら武士が
強くつても飛道具や敵は
なからう、もしもお武士が
撃たれてお了ひなされば俺
達の命も失くなる、事にお
武士に的らねえとしても傍
にある俺の方へ外れて来な
や大變だ、斯ふ言ふ時には

神佛にお願ひするのが一番
だ、此處から一番近いのは
身延山だ、近い處へお願ひ
した方が早く来て呉れるだ
らうと巧く考へた「南無妙
法蓮華經 南無身延山大權
現」と夢中になつて祈つて



へビシリと當る、仕損じた
りと鐵砲を投げ出して腰の
刀の柄に手をかけようとし
た處を飛掛つた彼の武士が
刀の背を返してビシリ右か
肩先を打つたからアツとい
つて後へ倒れる、忽ち躍り
かゝつて膝下に組伏せ
武『ヤア汝等見よや正義の
武士には鐵砲も的らぬ況し
て汝等のやせ腕にて束にな
つて掛つてせ我に及ぶ氣遣
ひなし、無益の殺生を好ま
ざる此の方こそ是は助け置
いたるなれど此の上手向け
致すに於ては容赦はならん
片端より皆殺にするから覺

ある、賊の張本驚九郎一發
の下に撃ち殺してくれよう
と胸元へ狙を付けたが青眼
につけた一刀に全身が隠れ
てしまふかと思はれる有
様にこれはと驚き暫く躊躇
してゐる間に聊か隙が見え
たから、此處ぞと撃つて放
てば彈丸は外れて向ふの岩

悟をしろ』
と大音聲に呼ばはつた小
賊共はその腕前に恐れをな
して再び立ち向ふとする者
もない、然るに此の時足音
高く走り來つた者がある。
賊の仲間と見えて小賊共は
大いに喜び、
『ヤア客人がお出でなす

つた、頭客人が来たからも
う大丈夫だ』
といふ、驚九郎も組敷か
れ乍ら大きく喜び聲高く
驚九郎先生、よく來てお
くんずつた、思ひの外手
強い奴で残念ながら不覺を
取つた早く來て助けてお呉
んなせえ』
溝『心得申した、拙者の參
りし上からは高の知れたる
旅武士、只一太刀に斬り捨
て、御覽に入れる』
と大言を拂つて近付いた
處が彼の旅武士溝口と言ふ
奴の面を見ると大に驚き
且つ喜んで

武『ヤア汝は人面獸心の溝
口五左衛門ならすや、汝の
爲に父を討たれ又姉が汝故
に非業の最期を遂げしより
其の怨みを晴さんため永ら
く貴様の行衛を尋ね居つた
が、今此處で出會ひしは
草場影より父や姉が導き
給ひしものならん、イサ尋
常に勝負をせよ』
溝口五左衛門ハツと驚い

て
武『ヤアこれは珍らし中根
源五右衛門の伴源太郎か仇敵
呼ばはり片腸痛い返り討ち
にするから覺悟をしろ、コ
レ仲間豫ねて貴様達に話し
た通り拙者を敵と狙つてゐ
る者があるといふたのは此
奴だが成程此奴は腕の達者
な奴だ、氣の毒だが助勢を
して呉れ』
○『オヤ／＼お前さんも敵
はねえんですかい、然しま
あ大勢ならやられねえ事も
ねえでしようソレ皆やつち
まへ』

と再び獲物を取つて向ふ
とする大に怒つた源太郎
は
源『情を以て助けたるに再
び敵對いたすとは憎い奴そ
の儀なれば片端からソレ此
の通りだ』
と言ひながら組敷いてゐ
た驚九郎をドンと前へ突き
放す、ヒヨロヒヨロとのめ
つて出る處を
源『エイッ』
とボロリ首を斬り落した

長唄
花柳流
舞踊

御稽古な
おすしめ
致します

平町七三
花柳流舞踊
研究所
花柳徳三郎
杵屋十茂代

木村科醫院

平町五丁目橋際
電話九〇三番

看護婦急派

の求めに應

じます

平町南町

平看護婦會

電話三〇七

舊正

初賣の景品御準備

本年は漆器の他に小雜貨類も取揃へ御便宜を計り
極力奉仕勉強致します故是非本年も御愛顧御引立
を御願ひ致します。

必す格好な品がありますから御照會下さいませ。

各國産漆器
記念表彰品
恩賜賞與品
進物贈答品
景品賞品類



共榮漆器店

平町三丁目北裏通り

旭硝子株式會社製品
赤菱印
板ガラス

製造賣
硝子食器
其他各種

松崎硝子製作所

平町新川町(電話一四二番)
仙臺市榮町(電話五九七番)

評判で香りのよい

電熱ほうじ茶發賣

一號 一斤六〇 四半斤 一五
二號 一斤四〇 四半斤 一〇

大 黒ばしら家の王

お勝手道具は世帯王

大勝園で買つた茶は

茶の間の王と客問王

父様母様おすきの茶

客のほめる茶喜ぶ茶

大勝園

電三九六番